

第4号様式

指定管理業務評価表

施設名	富士見市立放課後児童クラブ	令和6 年度	事 業 報 告
指定管理者名	社会福祉法人 富士見市社会福祉事業団		
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日	所管課	子ども未来部 保育課

自己評価…指定管理者 所管評価…市（施設所管課）

1 業務 の実 施 体 制	個別評価項目	確 認 基 準	自己評価	所管評価	施設所管課評価意見
	人員体制	事業計画書どおりの人員を配置している。	A	A	
		必要な資格や経験を有する人員が配置されている。	A	A	
		責任者（代理する者）が施設に常駐している。	A	A	
	職員の対応等	仕事内容を十分に把握し、利用許可や施設案内等を迅速かつ適正に行っている。	A	A	
		名札を着用し、業務遂行にふさわしい服装となっている。	A	A	
		利用者の要望や苦情等に対して適切に対応している。	A	A	
		言葉遣い、態度などの接遇は適切である。	A	A	
		事業計画に即し、職員研修を計画的に実施している。	A	A	
	法令等遵守	法令、条例等に基づき管理運営を行っている。	A	A	
	個人情報保護	個人情報保護に関する規程が整備され、個人情報の漏洩、滅失等の対策を講じている。基本協定書の個人情報取扱特記事項を遵守している。	A	A	
2 業務 の 内 容 ・ 水 準	情報公開	情報公開に関する規程が整備され、適切に対応できる。	A	A	
	報告書の提出	定期報告書、事業報告書を期限内に提出している。	A	A	
	安全、緊急対策	事故・災害等緊急時のマニュアルがあり、訓練が実施され、連絡体制や対応体制ができている。また、事故等があった場合、適切な対応が行われ、報告が市にされている。	A	A	
		事故防止及び安全確保（避難通路の確保等）のために施設や設備の目視や点検を行い、常に施設や設備の状況を把握している。	A	A	
	維持管理	条例等の規定に基づき開館日、開館時間を遵守している。	A	A	
		外部委託の内容は、事前に市の承認を受けており、適切である。	A	A	
		仕様書等に従い、清掃、警備、衛生管理を適切に行い、利用者が施設を快適に利用できる環境となっている。	A	A	
		仕様書等に従い、施設・設備の保守管理を適切に行い、利用者が安全・快適に施設を利用できている。	A	A	
		備品台帳に基づき、備品を適切に管理し、利用者が快適に利用できているか。	A	A	
		協定書等に従い、適切に修繕を行っている。	A	A	
	事業運営	事業計画書に即し、自主事業を実施している。	A	A	
		事業内容が利用者サービスの向上に寄与している。	A	A	
		地域や他施設との連携に努めている。	A	A	
	利用者アンケート	利用者の要望等の把握方法は適切である。	A	A	
		要望等の対応策は適切である。	A	A	
	利用状況	利用者数、稼働率等は、適正な水準にある。	A	A	
	管理記録	業務日誌を適切に整備、保管している。	A	A	
		点検、修繕等の履歴が適切に記録、保管されている。	A	A	
	環境配慮	省エネ、ゴミの抑制、リサイクルの推進に努めている。	A	A	
3 収 支 等	経理事務	専用の口座、帳簿等を備え、適切に経理事務を行っている。	A	A	
	収支状況	収支予算書と比較して、収支状況は適正である。	A	A	
	経費縮減	経費が縮減され、又はその縮減に向けた努力を行っている。	A	A	
総合評価			A	A	

成果・課題等	（自己評価） 就労世帯の増加に伴い、放課後児童クラブの利用者児童数が増加傾向にある中、体育館や特別教室の借用など小学校のご協力も頂き、児童一人ひとりの生活や児童どうしのコミュニケーションが豊かになるよう育成支援に努めました。利用する保護者からは、日々の連絡帳や利用者アンケートにおいて感謝の言葉を頂き、在籍する児童の安全・安心と働く保護者の安心を保障し、社会基盤を支える役割を果たしていることをあらためて実感させられました。 児童クラブの役割を最大限に発揮するため、職員の資質向上を目的とした各種研修において、これまでのオンライン、動画視聴による研修の企画と並行して、対面を前提とした研修にも参加し、訓練や内部研修においても、全職員を対象とした「アレルギー学習会（エピベン講習）」や「AED講習会」、クラブ毎の補助員を対象とした「倫理規範・申し合わせ事項を学ぶ倫理研修（倫理委員会）」等、対面で学び合う訓練、研修を実施することができました。また、昨年度より「埼玉県アライチャレンジ企業」に登録していることもあり、「LGBTQ県民講座」の動画視聴研修に取り組み、職員の理解を深めました。オンライン研修、対面研修のそれぞれの良さを活かし、より一層の内容充実を図りました。 今年度は、関係機関との緊密な連携に重点を置き、小学校との日常的な申し送りと情報共有を積極的に行い、いくつかの小学校では「学校長との懇談」を定期的（月1回）に実施して頂きました。「小学校からクラブへ、翌日また小学校へ」という流れの中に児童の生活はあります。こうした小学校の手厚い協力体制は、育成支援を充実させる上で欠かせない大きな支えとなりました。また、その他にも「配慮を必要とする児童の対応」において、富士見市保育課、障がい福祉課と懇談（年2回）や教育相談室との懇談（アドバイス）、「配慮を必要とする世帯」への充実した支援をするため、子ども未来応援センター等との情報共有、ケース会議への参加、「年長児との交流」を目的とした、各小学校区の中にある保育施設との交流行事の実施等、様々な関係機関との連携を図りました。 クラブ毎の取り組みとしては、児童が楽しめる「お楽しみ会」や「遊びの大会」、「季節を感じられる行事」等を年間を通して実施しました。また、「いじめ防止」について、考える（あう）機会を設けるとともに、「ヒヤリハットの事案を題材にした企画」も実施し、児童自らが「自分たちのこと」としてを考え、捉えられるよう積極的に取り組みました。子育て支援としての取り組みは、学年・地域別の保護者懇談会を小学校の参観日と同じ日程で参加しやすい形で実施し、長期休み（前後の日程）の昼食支援としての「お昼づくり」「注文弁当」等、クラブの実情に合わせて充実させる等、育成支援、子育て支援のより一層の充実を図ることができました。 集団での生活と遊びの現状は、楽しさや嬉しさなどの新しい刺激も多くありますが、少なからず不安やストレスもあり、子どもたちは現状に適應する力が求められ、その健気な反応に感心させられることもありました。職員はその現状を把握し、日々の丁寧な声掛けや寄り添うことを大切にした対応に心をつくし、その結果、今年度の利用者アンケートにおいても高く評価して頂きました。 さらに重要な課題として、近年増え続けている入室児童数と大規模過密化の問題があります。富士見市民の仕事と子育ての両立を支援するための事業役割があるため、富士見市で安心して子育てができるように私たちは職員の資質向上と事業内容の質の向上をめざして力を入れてきました。利用者アンケートには、昨年度同様に子どもたちが適正な規模で生活を保障されることを願う多くの意見を頂きました。富士見市の将来を担う大切な子どもたちが健やかに生活し、保護者が安心して働くことできるように、「親切と思いやり」をもって今後も丁寧な運営を進めてまいります。	
	（所管評価） 共働き世代の増加や働き方改革などの社会状況の変化により利用児童数が増加している中においても、児童の安心・安全をはじめ、丁寧な保護者対応、指定管理業務仕様書に基づいた適切な放課後健全育成事業を推進していること、また、日頃から学校や地域・関係機関との連携に努め、緊急時に備えた体制整備に努めている点を含め、良好な事業運営ができているものと評価します。 今後においても利用児童数の増加が見込まれることから、引き続き、児童の安全確保並びに施設設備の適切な維持管理に努めるとともに、利用者、学校、地域住民等との良好な関係を維持しつつ、利用者満足度の向上に努めていただくことを期待します。	

※評価区分

①	個別評価	AA（優 良）＝協定書、仕様書等を遵守し、その水準よりも優れた管理運営内容である。 A（良 好）＝協定書、仕様書等を遵守し、その水準に沿った管理運営内容である。 B（問題含）＝協定書、仕様書等を遵守しているが、管理運営内容の一部に問題がある。 C（要改善）＝協定書、仕様書等を遵守しておらず、改善が必要な管理運営内容である。
		
②	総合評価	AA（優 良）＝個別評価がすべてA以上であり、かつAAが過半数である。 A（良 好）＝個別評価がすべてA以上である。（上記以外） B（問題含）＝個別評価がすべてB以上であり、Bの割合が1割未満である。 C（要改善）＝上記以外